

「メディセオ阪神ALC（仮称）新築工事」

令和3年7月9日協議終了

行為の概要

申出者	住所 大東京都中央区八重洲二丁目7番15号 氏名 株式会社メディセオ 代表取締役社長 長福 恭弘
設計者	住所 大阪市北区西天満1-9-13パークビル中之島205 氏名 株式会社Okamoto総合建築事務所 岡本 廣之
行為の場所	西宮市津門大塚町1番18号
敷地面積	26,446.30 m ²
施設用途	倉庫
建物規模	鉄骨造 / 建築面積 14,761.51m ² / 延床面積 47,249.69m ² 高さ 約25m
備考	

※この資料に記載の内容は、令和3年7月9日時点のものであり、その後変更となる可能性があります。

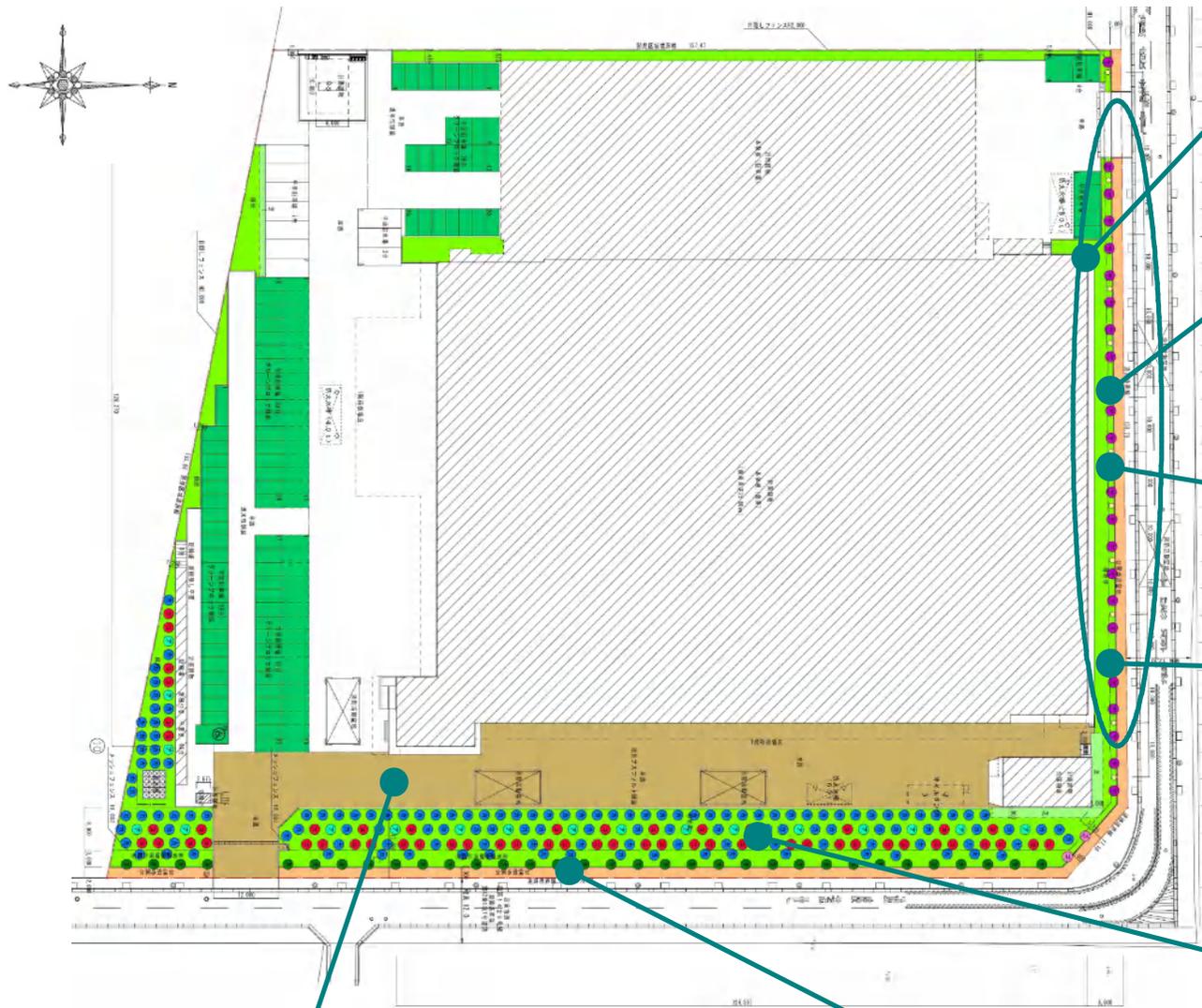
【メディセオ阪神 ALC（仮称）新築工事（計画策定段階協議）】における助言について

助言	回答
<p>【配置計画について】</p> <p>(1) JR神戸線からの見え方も重要であり、現計画は建物規模に対して道路からの後退距離が短い。配置の見直し、反転、余剰地や緑地の移動等の調整により、可能な限りセットバックするために検討するべきである。</p>	<p>配置の見直しにより北側4mの壁面後退（当初）に対して6mの壁面後退した位置で計画します。</p>
<p>【形態意匠について】</p> <p>(2) 本計画は「津門大塚地区景観重点地区」に指定されており、地域に調和した色彩計画とすることが重要である。本地区では、緑に調和するアースカラーを基調とした意匠で統一しているため、建物外観は無彩色ではなくアースカラーを基調とするべきである。</p> <p>(3) 色彩による分節効果について、色を3段から6段程度で変更するなど、最も効果的な色彩計画となるよう検討してはどうか。</p> <p>(4) 窓枠や樋等においても、アースカラーと調和する色彩とするなど、細部にも建物全体の統一感を持たせる工夫をしてはどうか。</p> <p>(5) 分節について、壁面は色彩のみではなく、材質や仕上げなどによる変化をもたせてはどうか。</p>	<p>地域に調和した色彩計画として、アースカラー（Y R系）を基調とします。</p> <p>色分けを階ごとの4段階として計画します。</p> <p>樋についてはアースカラーと調和する色彩とします。</p> <p>一部壁面に緑化を取り入れます。また仕上の変化についても検討を行います。</p>
<p>【緑化について】</p> <p>(6) 北側の緑地が少ないため、緑地幅の拡幅及び街路樹ピッチに合わせた高木の配置が望まれる。</p> <p>(7) 北側街路樹は桜であるため、北側緑地では、桜を検討してはどうか。未熟なソメイヨシノは、壁面の大きさを強調してしまう恐れ</p>	<p>街路樹ピッチに合わせた高木を配置します。配置の見直しにより確保した空間は緑地とします。</p> <p>ヤマザクラで計画します。</p>

【メディセオ阪神 ALC（仮称）新築工事（計画策定段階協議）】における助言について

助言	回答
<p>があるため、大きく育つヤマザクラを植えてはどうか。</p>	
<p>（８）東側緑地の樹種は、台湾フウをベースとしつつ、コナラ、カツラ、アラカシ等様々な樹種を織り交ぜて立体的で自然な植栽帯を演出してはどうか。</p>	<p>そのように計画します。</p>
<p>【照明計画について】</p> <p>（９）北側の区画道路は、現在寂しい雰囲気であるが、樹木の間や足元に照明を配置するなど、安心感のある暖かい印象を与える照明計画としてほしい。</p>	<p>そのように計画します。</p>
<p>【外構計画について】</p> <p>（１０）新設する歩道は、既存の歩道と同様、または少し濃い落ち着いた仕上げとしてほしい。</p>	<p>既存の歩道と同じ仕様とします。</p>
<p>（１１）車路部分は通常のアスファルトではなく、基調とするアースカラーに調和する YR 系のカラーアスファルト（脱色アスファルトを含む）を使用するなどしてはどうか。</p>	<p>東側の車路については脱色アスファルトを計画します。</p>
<p>（１２）北東角部には、西宮独自の権現平桜か舞桜をポイントとして植樹し、石材のベンチ等歩行者が停滞できる歩道空間を演出できないか。</p>	<p>権現平桜を計画しますが、ベンチ等の設置は行いません。</p>
<p>以上</p>	

良好な景観の形成に対する配慮事項及びその方策等



可能な限りの壁面後退及び緑地幅の確保を行うことで、敷地北側の歩道への圧迫感にも配慮する。

街路樹と同ピッチによる植栽計画とし、周囲の歩道との調和に配慮する。

ヤマザクラを植樹することで、建物の圧迫感に配慮する。

足元照明をヤマザクラとの間に10mピッチで配置することで歩道空間に快適な空間を創出する。

東側車路には脱色アスファルトを使用し、地域との調和に配慮する。

新設公開歩道は、既存の歩道と同様の仕様とする。

台湾フウをベースに、コナラ、カツラ、アラカシ等を混植することで、立体的で自然な緑を創出する。

良好な景観の形成に対する配慮事項及びその方策等

【北西アイビューイメージ】



アースカラー（Y R系）を基調とすることで、「津門大塚町景観重点地区」に調和した色彩計画とする。

階層に応じて色彩を変化させ分節を行い、長大な壁面の圧迫感に配慮する。

【南東アイビューイメージ】



樋等の細部においてアースカラーとすることで、建築物の統一感に配慮する。

【東立面イメージ】



タイムワンフウをベースに、コナラ、カツラ、アラカシ等を混植することで、立体的で自然な緑を創出する。

壁面緑化を取り入れ、表情の変化に留意する。その他仕上げの変化についても、今後検討する。